

## “2004 Nudie 16<sup>th</sup> World Hot Air Balloon Championship” 世界選手権参加レポート

橋間 和子（役職：オブザーバー）

6月下旬から7月上旬まで、オーストラリアのミルデュラで行われた熱気球世界選手権にオブザーバーとして参加してきました。これから、現地でのオブザーバーとしての体験や大会に参加しての私なりの感想をレポートしてみたいと思います。

私はこれまで1992年から佐賀（主に）や茂木での国際大会や各地域での熱気球大会にオブザーバーとして参加をしてきました。1997年には佐賀での世界選手権へ参加し、「いつかは海外での世界選手権へもオブザーバーとして進出してみたい！」と固く決意。前回のフランスの世界選手権は急用で直前に泣く泣く断念、、、（現地で地主さん探しに事を欠かないようにと猛特訓したフランス語もむなしく、、、）こんな私が目指したオーストラリアでのオブザーバーとしての参加は、「今度こそ任務を果たしたい！！」という思いでいっぱいでした。

例年この時期のミルデュラは穏やかな天候で晴天が続き、フライトキャンセルはほぼありえないだろうと地元の人からも聞いていたので、「日焼け止め持参と体力勝負だ」と思い、現地入りしました。初日の朝のフライトがさすがしくスタートし、午後のフライトを期待したのもつかの間、風が強く、その日の午後から3日目の朝までキャンセルとなってしまうました。毎回の全体ブリーフィングの前に行われたオブザーバーブリーフィンでタスクシートが渡されるのを期待しつつも、キャンセルが続くと「世界選手権としてタスク数は足りるのかなあ？！どうか早く天候が回復しますように」と願っていました。久しぶりのフライト3日目の午後、かなり辛い強風の中でのインフレーションが行われ、ほぼ横に倒れながら離陸をする気球が何機もありました。4日目オールキャンセル、5日目の朝5タスクのフライトに懐かしさとその後どっぷり襲ってきた疲労、、、結局、6日間で4フライト、13タスクが行われる結果となりました。

競技は限られた期間の中でFIN,PDG,FON,HWZなどが組み合わされて行われ、5日目と6日目にはFONのダブルタスクが1フライトにそれぞれあり、特に同じゴールの設定をされた交差点ではオブザーバー同士協力してロストマーカーを防ぐようにしていました。

今大会では競技前から予め、約200ポイントの交差点の中心に印が付けてあり、マーカーからゴールまでをダイレクトに計測する場合やGPSで計測する場合、その中心を使うことができました。ただし、気をつけないと自分のパイロットが宣言したゴールに中心の印がないこともあり、GPSだけに頼らず、ダブルチェックで地図と地形をよく見てコンパスを使い計測を行う必要もありました。それはチェックインの時にもらった競技地図には、最初から競技外区域、PZエリア、CLPポイント、ハイウェイなどが記載してあり、地図作成の手間が省かれて良かったと得した気持ちでした、が、残念なことに実際の地形と違った箇所があった為です。ブリーフィングの中でもたびたび“Valid or invalid?”と競技されていましたが、私自身も地図上にない交差点に出くわすこともあり、そんな時はパイロットの指定した交差点から一番近い地図上の交差点も計測してデブリファーに報告するようにしました。

そして、今大会でもGPS loggerが使用されたため、オブザーバーの間では世界各国共通で「近い将来、競技にはGPS loggerのみが使用され、オブザーバーがいなくなる?!」「GPS loggerには負けたくない!!」など切実な意見も飛び交っていました。

最後に、今回私がオブザーバーとしてついたチームは、リトアニア、イタリア、フィンランドそしてドイツ。フライト招待を受けたリトアニアとドイツチームについて少し紹介をしてみたいと思います。

す。リトアニアチームでは、初フライトからミルデュラの町を上空から一望。3つ目のマーカーが投下され、ランディングまで後わずかという時に“Kangaroo, kangaroo!!”とパイロットの叫ぶ右前方に必死に走っていくカンガルーが。「さすがオーストラリア！」。最終日の6日目のドイツチームでは、うわさ通り4チームの作戦から始まり、同じ離陸地点内より飛び立ち、同じ地点内に4つきれいにランディング。記録を執りながら次々と他のチームの on target も間じかで見ること。優雅さの反面、ブドウ畑のマーカーからゴールまでを計測する為何度も柵をくぐり抜けたあの経験も良き思い出です。

今回スタンバイはなかったものの、全競技のタスク数が少なかった為、物足りなかったような気もしますが、その分競技がキャンセルされた日には地元オブザーバーの方々の特別の計らいで充実した時間を過ごしました。そして、海外での世界選手権に参加できるようになったのも、私がバルーンを始めた頃からの先輩オブザーバーや役員、選手の方々のお陰だと思いました。良い経験を積ませてもらった事に感謝しています。オブザーバー活動がある限りまた国内外でがんばりたいと思います。